



“自分の将来を真剣に考える” 2学期に。

暑さが峠を越えるとされる「処暑^{しよしよ}」(8月22日)を過ぎても、厳しい残暑が続いています。しかし、暦の上ではもう秋に入っていて、今年(2024年)のカレンダーは残り4枚になりました。

短い3学期は次の学年の準備期間と考えれば、2学期は1年をしめくくる大切な時と言えます。半年後に卒業を控えた3年生はもちろん、2・1年生も自分の将来を真剣に考え、1日1日を大切に過ごしたいものです。個人としても集団としても、さらなる成長を遂げる2学期になるよう期待しています。

▼夏休み中の新聞記事や三豊市ホームページに、豊中生の活躍がたくさん掲載されていました。充実した夏休みの様子が伝わってきます。

三豊市と友好都市の陝川郡から中学生訪問団が同市を訪問し、豊中中学校(同市豊中町、佐川圭三校長)の生徒たちと好きな漢字を書いたオリジナルうちわを作るなどして親しく交流した。

漢字うちわ作りで親睦

豊中中、韓国中学生と



うちわに書く漢字を選ぶ陝川郡の中学生訪問団の生徒(左)＝三豊市豊中町、豊中中



各科目で全国大会へ出場します！

祝 全国大会出場
おめでとう！

▲全国大会で表彰された豊中中
▲各科目で全国大会への出場が決まった選手たちの団員が市長へ報告に訪れました。

8月5日 韓国陝川郡の中学生と友好を深めました(豊中中学校)

更新日: 2024年08月23日

韓国陝川郡の中学生と友好を深めました(豊中中学校)



▲輪投げをして、日本の産物やお菓子をプレゼントしました



▲好きな漢字を書いたオリジナルうちわを作中



▲市長表敬訪問時に記念撮影

「心」を多く選び、中には「愛」や「龍」に挑戦する生徒も。戸惑っていると豊中の生徒がそっと手を添えて助け、グループの翻訳機能を活用しながらコミュニケーションを取った。

「うちわに『花』『心』の漢字を書いた陝川の中学2年生21人が参加して26日から29日まで陝川を訪問した。

双方の中学生は1人ずつ自己紹介し、混合グループに分かれて活動した。うちわ作りでは、白地のデコレーションうちわに思い思いの漢字を筆ペンで書いた。陝川の中学生は「友」「心」を多く選び、中には「愛」や「龍」に挑戦する生徒も。戸惑っていると豊中の生徒がそっと手を添えて助け、グループの翻訳機能を活用しながらコミュニケーションを取った。

双方の生徒たちは引き続き、一緒に近くの大型量販店で食事や買い物を楽しんだり、市内の観光名所の紫雲山と父母ヶ浜を回ったりし、いっそう親密さが増した。

陝川の一行は7日まで三豊に滞在。一方、豊中からは生徒21人が参加して26日から29日まで陝川を訪問した。

年ハン・ヘンソンさんは「簡単そうだし、かわいいなと思って選んだ。書くのは難しかったけど面白かった」とこぼす。豊中2年の大宮奈々さん(13)は「言葉の壁があってもジェスチャーを交えて伝えることができ、いい経験になった」と振り返った。

- 左上：漢字うちわ作りで親睦～豊中中、韓国中学生と＜四国新聞(8月30日)より＞
- 左下：韓国陝川郡の中学生と友好を深めました＜三豊市ホームページ(ほっとニュース)より＞
- 右上：全国大会出場おめでとう！(市長表敬訪問)＜三豊市ホームページ(ほっとニュース)より＞